

平成26年度 附属図書館年度計画（抜粋）

平成26年3月13日
名古屋大学附属図書館

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

K1-1,K9-1. 中央図書館職員等による英語図書の選書を試行する。

K1-2,K9-2.これまで蓄積してきた学習支援コンテンツやサポート等、学習支援方を整理し、継続的な学習支援体制の構築に向けて検討を進める。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

K2-1,K2-3,K2-4,K3-1,K4-1. ラーニング・コモンズを活用して、名古屋大学附属図書館情報リテラシー基準に基づき、教員、部局図書館・室と連携して講習会を開催する。

(3) 学生の支援に関する目標

K3-1,K2-1,K2-3,K2-4,K4-1. ラーニング・コモンズを活用して、名古屋大学附属図書館情報リテラシー基準に基づき、教員、部局図書館・室と連携して講習会を開催する。

K3-2,K4-4. 教員からの図書推薦を集約化しつつ、蔵書整備アドバイザーによる選書を効率的に行う。また電子書籍の利用状況を調査し、学生のニーズに合った冊子体・電子資料の提供を検討する。

K4-1,K2-1,K2-3,K2-4,K3-1. ラーニング・コモンズを活用して、名古屋大学附属図書館情報リテラシー基準に基づき、教員、部局図書館・室と連携して講習会を開催する。

K4-3. 全学的な資料の整理・保存の方策について検討を開始する。

K4-4, K3-2 教員からの図書推薦を集約化しつつ、蔵書整備アドバイザーによる選書を効率的に行う。また電子書籍の利用状況を調査し、学生のニーズに合った冊子体・電子資料の提供を検討する

2 研究に関する目標

(1) 研究水準、成果及び実施体制等に関する目標

K5-1. 2015年の購入外国雑誌・電子ジャーナルを決定する。2016年以降の電子ジャーナル及びデータベースの持続的かつ効果的な整備のため、具体的な施策を引き続き検討する。

K5-2. 研究分野の広がりに対応し、研究用コーナーの収集方針を見直す。

K5-4. 電子資料の可視性の向上のため、ディスカバリーサービスでの電子的資料の目録公開を進める

K5-5. 博士論文、マイクロ資料などのコレクションについて、目録公開を進める。

K7-1.引き続き学位論文のリポジトリ登録を行う。国立国会図書館の自動収集に対応する。

K7-2.平成25年度の実験結果を踏まえ、引き続き「附属図書館研究年報」でスターターキットの試用を継続する。

3 その他の目標

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

K8-1. 水田文庫目録刊行記念講演会を開催する。

K8-2. 引き続き「ふみよむゆふべ」などの行事を実施する。

K8-3. 東海地区図書館協議会の連携の新たな枠組みの提言を行う。

K9-1,K1-1. 中央図書館職員等による英語図書の選書を試行する。

K9-2,K1-2.これまで蓄積してきた学習支援コンテンツやサポート等、学習支援方を整理し、継続的な学習支援体制の構築に向けて検討を進める。

K10. 名古屋大学海外拠点での学術情報流通分野における研究支援を検討する。

K11. グローバル化に対応するため英語での情報提供を進める。

K12 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

K13 具体の年度計画は、個別の各「中期目標」欄に記載した。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

K14. 商議員会の構成メンバーの見直しについて検討する。

K15-1, K15-3. 引き続き研究開発室兼任教員との連携により、新たな図書館サービスへの発展を図る。

K15-2. 特任准教授のポストを引き続き確保し、学内類縁機関との連携に基づいた高木家文書等の研究を推進する。

K16-1. 引き続き業務の効率化を進める。

K16-2. 平成26年度・27年度職員育成ポストの運用を開始する。

K16-3. 教育・学修支援機能強化のための連絡会で情報共有・連携を進める。

2 事務等の効率化・合理化に関する目標

K17-1. 図書系職員の専門的能力開発プログラムに基づき、次世代図書系職員の育成を引き続き推進する。

K17-2. 引き続き地区を中心に人事交流を検討し、推進する。

K18-1. 次期図書館システムを導入し、運用を開始する。

K18-2. 引き続き、業務の点検・見直し・改善を行う。

K18-3. 中央図書館、部局図書館・室の連携の下、リテラシー講習会や研修の共同事業化を進める。

K18-4. 25年度の改善結果を評価し、業務見直しを継続する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部資金、寄附金その他の自己収入に関する目標

K19. 引き続き各種の助成金について申請スケジュールに基づき確実に申請を行う

K20. 引き続き、国内外の事例を調査し、適用可能な方策を検討する。

2 経費の抑制に関する目標

K21-1. 電子ジャーナル等の電子情報資料に関しては、引き続き全国レベルのコンソーシアムに参加し、購入費の抑制を図る。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

K22-1. 未遡及入力の本の原簿データを部局図書室に提供して不明図書(未遡及入力分)の除却を促進し、図書資料の適正な管理を行う。

K22-1, K22-2. 昨年度に引き続き、不要図書を除却後、ホームカミングデイの「本のリユース市」で販売し、収益金により学生用図書を充実させる。

K22-3. 図書使用責任者が除却判定できる重複図書について調査する。

K22-4. 伊藤圭介文庫の翻刻データの電子化を進める。神宮皇学館文庫等の「古典籍内容記述的データベース」への登録を進める。

K22-5. 全学の遡及入力実行計画(平成23年～27年度)に基づき、目録公開を行うため、和漢古書、法判例・議会資料、博士論文について総合目録データベースへの遡及入力を進める。

K22-6. 実証実験終了後の新たな枠組みのもとで図書館間相互貸借を推進する。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 自己点検・評価に関する目標

K25-1. 図書系職員による洋書の選書の効果を調査する。

K25-2. 平成24年度に実施した外部評価に基づき、引き続き今後の対応を検討する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

K26-2. 学内刊行物再調査の結果を元に、コンテンツの収集を進める。その他の研究成果物について教員へ個別に登録依頼を行う。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備等に関する目標

K28-1, K28-2. 東海地区大学間学術資源活用事業(仮称)の実現に向けた諸作業を行う。

2 安全管理に関する目標

K30-2, K31-2. 平成25年度に整備された防災に関する学内規程に基づき、非常時行動マニュアルの見直しに着手する。

K31-1. 引き続き、名古屋大学地震防災訓練時に、中央図書館利用者の訓練参加を進める。

K31-2, K30-2. 平成25年度に整備された防災に関する学内規程に基づき、非常時行動マニュアルの見直しに着手する。

3 法令遵守に関する目標

K32. 研修等で情報セキュリティポリシーの周知や啓発活動を行う。